

川上村インターン報告書

千葉大学園芸学研究科
博士前期過程1年 桜井健太

1. はじめに

インターン参加理由

私は、林業に興味がある。大学での研究も、樹木に関わる研究をしている。大学の授業で、日本の林業を取り巻く現状は厳しいと習ったことがあった。しかし、体験の伴っていない机上で得た知識には説得力がなかった。そこで、実際に林業を肌で感じたいと考え、林業を体験できる川上村のインターンを受けようと思った。また、川上村は、全国的に有名な吉野杉の特産地である。この吉野杉の特産地である川上村の林業が、どんな問題を抱えていて、どんな対抗策を練っているのか知りたいと思った。これらが、私がこのインターンに参加した理由である。

研修内容

吉野杉を利用した伝統的な樽丸作りから、こんにやく作り、ダム見学など、幅広い分野をカバーした研修内容だった。

- 1日目：顔合わせ、村づくりの方針を学ぶ
- 2日目：「遊水フェスタ」の会場設営
- 3日目：「遊水フェスタ」の手伝い
- 4日目：こんにやくづくり体験
- 5日目：水源地の森の散策
- 6日目：樽丸づくり体験
- 7日目：集落めぐり
- 8日目：もくもく館にてヒアリング調査
- 9日目：かみせ祭り参加
- 10日目：吉野杉工房の見学、匠の聚盆踊りの参加
- 11日目：下多古人工林見学
- 12日目：川上さぷりにて材の販売に関する調査、ダム見学
- 13日目：発表準備
- 14日目：発表会



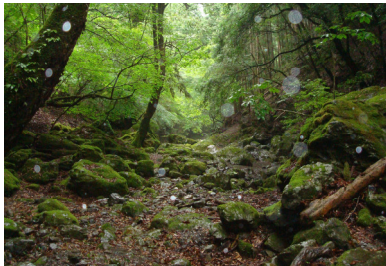
遊水フェスタ準備



賑わう遊水フェスタ



こんにゃく作り体験



水源地の森



樽丸作り体験



かみせ祭り



吉野杉工房見学



匠の聚盆踊り



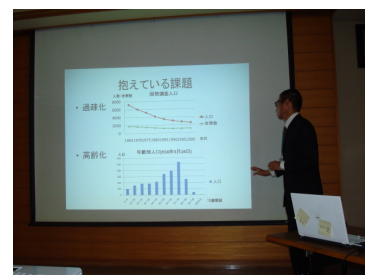
下多古人工林見学



川上さぷりでの説明会



発表会準備



発表会

2. 川上村への提案

今回、大きく分けて2つの項目について提案させて頂いた。1つ目が林業についての提案、そして2つ目が食についての提案である。たった2週間で川上村の全てを知ることができた訳ではないが、私の提案が今後の川上村の発展に少しでも貢献出来れば幸いである。

林業についての提案

背景

川上村の特産物の代表するものといえば吉野杉であろう。この吉野杉は、超密植・多間伐という方法で手間隙かけて育てられる。そのため、他の材よりも年輪の幅が狭く、節がないのが特長である。これが、当時の日本人の「節がない材がよい」とする時代背景とマッチし、最高級のブランド材として飛ぶように売れた。しかし、現在では「節があってもよい」とする価値観の変化や、安い輸入材との競争から、需要は減ってきている。さらに、林業従事者の高齢化や、多間伐にかかるコストの高さから、林業を続けることができずに人工林を放棄してしまうケースが増えている。



年輪の幅が狭い吉野材

提案①：消費者のニーズの理解とターゲットの変更

私は、この林業の問題について一朝一夕で片付くほど簡単ではないと感じると同時に、システムそのものを変える必要があると感じた。例えば、物を売ろうとしたが売れなかったとする。この時、何を変えるべきなのか？答えは、商品そのものを変えるか、顧客を変えることだと私は思う。これは、今の吉野材に当てはまるのではないか？時代が変化して皆の意識が変わった今、昔と同じことをやっていても売れる保障はない。そこで、今求められているのは、時代のニーズに合わせた木材加工である。デザイン性で付加価値を加えた若者向けの家具など売れるのではないだろうか？

また、伝統的な方法を変えずに吉野材を生産するのであれば、顧客を変える必要があると思う。日本では、人々の意識が変わった今、昔のブランド材がそのまま通用する保障はない。そこで、思い切って中国の富裕層にターゲットを絞ってみてはどうだろうか？ターゲットを変えることで、吉野林業に新しい風が吹く可能性もある。

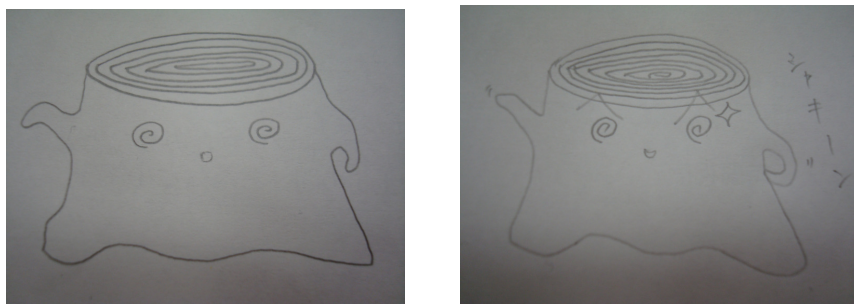
提案②：人工林を貸し出すシステムを作る

私は、川上村の人工林の 97%が村外所有者だということに問題があると思う。なぜならば、林業において何か行動を起こす時、わざわざ所有者の許可をとる必要があるからだ。そこで、村外所有者がもつ放棄された人工林を全て役場で買い取ってしまい、村有林にしてしまっただろうか？そして、住まいるネットと提携し、全国の林業家向けに空き家と空き山を貸し出すシステムを作ってみるのが面白いと思う。

提案③：子供達のハートをつかむゆるキャラを作る。

もくもく館を見学した際、気になっていたことがある。それは内容が少し難しいということだ。吉野林業の歴史など、詳しく説明されていて、とても勉強になったのはもちろんだが、樹木の勉強を少しかじった私でさえ難しいと感じるのだから、子供達から見たら尚更難しいと感じるであろう。この難しいというイメージが、林業が難しいというイメージにつながってしまう恐れもある。そこで、提案したいのが、子供達向けにゆるキャラを作り、そのキャラクターに説明させるということだ。キャラクターにうまく愛着を持ってくれば林業への愛着につながる可能性もある。このように、吉野林業を復興させるためには、子供達に林業に目を向かせるための仕掛けを作っておくべきだと思う。

以下の画像は、私がデザインしたゆるキャラ「よっしー」(仮)である。吉野杉がモチーフなのは言うまでもない。杉を題材としたキャラクターはたくさんあるが、切り株状になっていることで他のキャラとは区別できる。また、年輪の数が多いことが、吉野材であることを特徴付けている。そして、話し言葉は川上弁を話す予定である。もし需要があるのであればもう少し詳細設定を考えたい。



ゆるキャラ「よっしー」

食についての提案

背景

研修中、川上村には魅力的な食文化があることに気づいた。それぞれの家によって味が違う茶粥、お土産に最適な柿の葉寿司、新鮮な鹿のお造り、きれいな水で作ったそうめん、そして手作りにこだわったこんにやくなどがある。これらは、新しい川上村

の観光資源としての魅力がある。



茶粥



柿の葉寿司



鹿のお造り

提案①：グルメマップの提案

観光地に食べ物はつきものである。例えば、名古屋の味噌カツ、沖縄のゴーヤちゃんぷる、博多のラーメン、大阪のたこ焼きなど、有名な観光地には必ずといっていいほど美味しい名物が存在する。さらに、最近では、静岡の富士宮焼きそば、神奈川の厚木シロコロ・ホルモンなど、B級グルメとして有名になったものもある。観光雑誌を見ても、必ずといっていいほど食べ歩きマップは存在し、美味しい名物を取り上げている場面も多々見られる。

こんな中、川上村には、魅力的な食文化があるにも関わらず、それを取り上げたグルメマップが存在しないことに気づいた。地図と、食べ物の写真、そして解説が一緒になったグルメマップを作製し、川上村の食文化をもっと前にだしていきべきだと思う。

提案②：こんにゃくスイーツの提案

あらゆる女性にとって、スイーツという言葉は魅力があるに違いない。スイーツを食べるために遠出する女性も少なくない。しかし、川上村にはこれといったスイーツが存在しない。若い観光客や女性をもっと川上村に呼ぶためには、川上村特産のスイーツが必要だと思う。幸い、川上村にはスイーツを作るためにうってつけの材料がある。食感がよく、食物繊維がたっぷりですぐでいてヘルシーな、手作りこんにゃくがあるではないか。このこんにゃくは、新たなスイーツの材料としての魅力があると思う。



大辻さんの手作りこんにゃく

3. まとめ

林業についての提案

- ・従来の方法が続けるのなら、消費者のニーズに合わせた戦略が必要。顧客を日本から中国に変えるのもよいかも
- ・放棄林を買い取り、「住みいるネット」のシステムのように、山を貸すシステムを作る。
- ・ゆるキャラ「よっしー」で林業の将来を担う子供の心を驚掴み。

食についての提案

- ・グルメマップで川上村の食文化をもっと知ってもらおう。
- ・こんにゃくスイーツで、若者を観光客として呼ぼう。

4. 考察

今回、林業や食について好き勝手提案させて頂いた。この発表の構想を練るにあたって、物事には歴史や伝統があって、それらは新しい考えを入れる際にとても重要であるということを再認識した。その土地で発達してきた産業には、その産業が発達しうるそれなりの理由があり、昔の人はそれをうまく利用し、技術を身につけてきた。このように適材適所に土地をうまく利用する能力は、現代人に最も必要なものだった。そして、時代のニーズを見抜くことも同じくらい重要であることに気付かされた。これからの世の中、時代に合わせて戦略を練る臨機応変さが重要である。この臨機応変さと、歴史・伝統のバランスが上手くとれた時、初めて次の1歩に進めるのではないだろうか。

5. 感想

研修前に予想していた通り、たくさんの人にお世話になる中で、「人とのつながり」を認識できた2週間だった。インターン担当の杉田さんをはじめとする川上村役場の職員の皆様。水源地の森散策でお世話になった木村さん。林業に就いて50年、川上村を引っ張ってきた辻谷さん。こんにゃくづくりを体験させて頂くと同時に、出来たてのこんにゃくを惜しげもなく振舞って頂いた大辻さん。樽丸づくりでは匠の技を披露して頂いた春増さん、そして同じインターン仲間など、たくさんの方々にお世話になった。1つ1つの出会いを人生の糧とし、これから大事にしていこうと思う。